

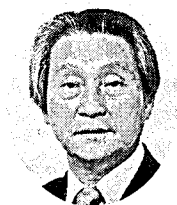
No. 113

1996.

3. 31

岐阜の博物館

〒501-32 関市小屋名
(百年公園内)
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111(代)
振替 名古屋 6 37909



関市の博物館構想

関市長 後藤 昭夫

岐阜県博物館が当関市に設置されてから20年が過ぎ、平成7年には「マイ・ミュージアム」も併設され、岐阜県の人文、自然両分野にわたる諸資料の公開の場として、また、県民の生涯学習の場としてますます発展されており、心から感謝とお礼を申し上げます。

特に博物館は、人文或は自然と幅広い活動が必要で、諸資料の収集、保管、展示、調査研究そしてそれらの活用を、学芸員さんの努力で利用者が楽しく学習でき、未来へ文化が継承されていくわけで、本当に大変な仕事と思っています。

私も歴史ある関市の文化などを、どうしたら未来に継承できるのだろうと、日々考えていますが、関市で現在進めている博物館構想を少し述べさせていただきます。

「刃物テーマパークと国際刃物博物館」

関市は、国際的な刃物の産地であります。刀鍛冶発祥以来780年余の長い歴史に育まれた関の刃物は、生産量のみならず、刃物の種類が豊富であるのも特徴であります。関の刃物は長い歴史の中で、純然たる産業と芸術の両方の面が性格形成され、この両面を組み合わせることにより、地味な地場産業が非日常的な空間の創造を目的とするテーマパークになり得るのではないかの期待から、「刃物テーマパーク構想」を進めております。この構想は、将来的な目標として「国際刃物博物館」を建設し、日本刀や古い刃物類そして世界中の刃物類などを収集し、保管、展示、調査研究の場にするもので、具体的な計画はこれからであります。西のゾーリングゲン、東のセキといわれるように、名実ともに「刃物のまち関」を世界に向けて情報発信するテーマパークとしたいと考えております。

また、昔から全国の刃物産地では、11月8日は「鞠祭(ふいごまつり)」の日として知られており、この日を「刃物の日」として定めることで、生活文化と切っても切り離せない道具としての刃物の存在を、全国へ向けPRしていきたい意向であります。

「歴史民俗資料館」

関市池尻字弥勒寺地区は、国指定史跡弥勒寺・小瀬鶉飼・円空入定塚など、関市民が誇る文化財産が集中しており、史跡弥勒寺跡の史跡公園整備と共に「歴史民俗資料館(郷土館・円空会館)」を建設する構想があります。この資料館では、史跡弥勒寺・小瀬鶉飼・円空に関する資料や遺物をはじめ市内全域から発掘した埋蔵文化財や民俗資料も合わせて展示し、学術的な利用を図り、観光資源としても活用するものです。史跡弥勒寺跡は、史跡公園整備に伴う発掘調査により、奈良時代初期の郡役所である「郡衙」といふべき構造をもつ建物群等が検出されており、古代における地方自治の発展過程を跡付ける学術的に極めて重要な史跡であることから、ここが資料館建設に最もふさわしい場所であると考えております。

また、蛇足ですが、この池尻字弥勒寺地区内では、全国から画家・陶芸家・彫刻家の方達に来ていただき、それぞれの分野の創作活動の場所としての「芸術村」を建設する構想も合わせてもっております。作品の展示などを含め、現代芸術文化の発信の地としたいと考えております。

「学習情報館」

博物館とは、少し性格を異にしますが、生涯学習活動拠点施設として、いきいき交流プラザ(学習情報館、総合体育館、総合福祉会館)の建設を平成8年度から市役所西側に着手いたします。学習情報館は、図書館・中央公民館・学習情報センターの機能を備えた複合施設で、市民が健康なライフスタイルを生み出すための「生きがい」・「健康」・「交流」を柱とし、老人から子供まで各世代の多様なニーズに対応した、快適で楽しさと安らぎを与える施設として計画されています。

学習情報館内の展示ギャラリー一室は、この施設全体の顔として、市の保有する重要文化財を広く一般に公開する「文化財の常設展示室」として計画しております。

手作りマルチメディアソフトの制作

期日：平成7年12月14日（木）

13時30分～15時30分

場所：岐阜県博物館「マルチメディア工房」

〈実践〉ハイビジョン手作りソフトの制作

この研修は、岐阜県博物館に今年度から設置されたマルチメディア工房で、実践的な研修としてなされた。最新の機器に囲まれて戸惑うこともあったが、講師の岩田正男学芸主事のわかりやすい指導で、参加者全員がソフト作りを実際に経験することができた。

1. ハイビジョン手作りソフトとは何か

ハイビジョン手作りソフトは、一種の紙芝居のようなもので、制止画像が数秒ごとに映し出され、それに音声がついたものである。最初は美術品紹介が主目的でしたが、今では、初心者でも簡単に番組が制作できる手作りシステムとして実用化されて、各地の自治体を中心に導入されている。

2. ハイビジョン手作りソフトの良さ

- 手軽に番組が作れ、製作費が安い。
- 高画質・高音質・大画面で、半永久的な記録保持能力がある。
- 極端な場合には、1人でも作れるなどの機動



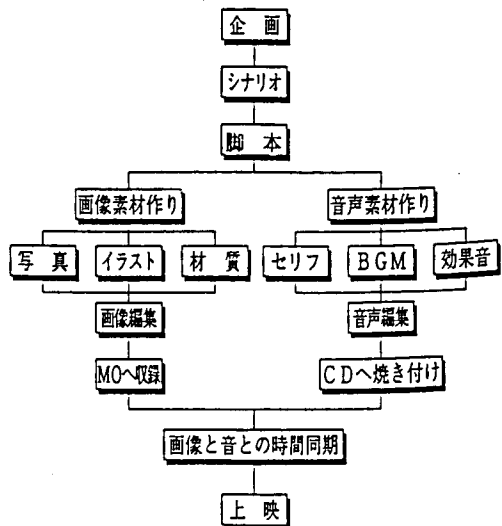
性がある。

• 手作りソフトは、絵画・写真・音楽・ドラマなどそのほかのさまざまな分野に結びついて、表現方法に大きな広がりを持つ。

• 全国に上映拠点が整備されている。

3. ハイビジョン静止面ソフトの制作

ハイビジョン制作には、プロデューサー・ディレクター・脚本・音声編集・演劇などのスタッフが考えられるが、実際には1人または少数で行うことが多い。その流れ図は次のとおり。



（研修委員 鹿野勘次）

(特別寄稿)

参加した国際会議 ICOM 委員会について

(最終回)

吉田 幸平

開会式やレセプションそれに分科会に参加したが、私にとって、スライドやVHFで発表されるのは、少々の語学ハンディーがあっても理解できたが、研究論文を早いスピードで読まれると、大変理解が難しかったのも事実である。海外に留学し、TOEFL

(Testing of English as a Foreign Language)の語学試験600点中500点以上を取って、かなりの大学に正式に留学しても、卒業のデグリーが仲々とれないのが日本人なのである。

語学ハンディーは日本人の大きな課題である。苦勞してその要点が解ければ成功である。それがために、このICOMに参加した日本人は、分科会を中心とした第二日目になると、他の視察なり観光に消えてしまうのが実態である。

最初のお別れパーティーまで参加したのが、毛利専務理事と秘書のN女史に、国立博物館の役人的存在の3人だけで、他はここまで参加せずに去られていた。参加者名簿には日本には16人あったが、5人だけであった。開会式に見た太鼓博物館の女子も第二日目からは見えなかった。それは、10年前のメキシコ・シティーICOMに参加して、分科会に参加したのは、小生と故鶴田総一郎氏(法政大学教授)・故広瀬鎮氏(名古屋学院大学教授)の3人だけであったことを思い出した。その外、日本博物館協会で募集して総括した約40人は、ICOMに顔を出さず、メキシコのユカタン半島やカリフォルニヤを廻って帰国したということを知った。その点今回は各自で登録し、各自で参加ということであった。約4,000人の博物館人のオリンピックである。彼らは英語は勿論、2~3ヶ国語を喋って直ぐ友達となっているのに、我々は仲々彼らに溶け込めないのは、語学

ハンディーがあることであった。日本人は簡単に肩を組んで一緒に写真を撮ったり、冗談は言えないのである。今、ロス・アンジェルズ・ドジャースの投手をやって凄く人気のある野茂選手でも、英語が重荷で、控え室でもウエディングボックスでも、仏顔で過ごしている。隣の選手は笑顔で喋っている。そんな光景をテレビで見て、彼も同じ心境だなあと感じたのである。だから、日本人がおればグループを作って得意な、ある種の白い糸で結ばれているように思えてならない。行動を共にしたN氏やH氏の「日本でICOMを開くのは30年後であろう」との発言を聞いて失望した。

開く実力があるのに開けないという現実がある。

む す び

1. スポーツセンターとその附属施設を中心としたSadissの会場には、臨時の銀行、郵便局、バイキングスタイルの食堂、それに各商社の博物館展示に必要な宣伝の出張展示、各ホテルへの送迎バスの配置、各分科会の窓口、大会参加者の受付の窓口、それにプロジェクトのコントロール等大変な仕事である。それに宿泊対策である。このノールウェーは母国語は勿論だが(ドイツ語によく似ている)、若者やインテリ等は英語を日常用語のように使用している国である。それだけに英語圏の一員といえるかも知れない。事務の女性も、バスの車掌も、レストランの女性も総てO・Kであり、クローネでなく、\$で何でも通用する国である。オースロの4泊を\$で支払ったのである。また街の骨董屋で、ロシアのサモアール(ピカピカに真鍮を磨いてあった)を約1,2000円を\$112で送料約260クローネを含めて船便で送ったのであった。英

語が通じ、\$でOK、全くアメリカにいと錯覚する。然し、ここにいてアメリカとは全然異なる基本的な雰囲気を感じない。それは、総て、治安が安全であるということである。夜1人で、何処を歩いても不安を感じないのである。

このサモアールを入手できたことは偶然であった。私は、学生兵として出陣するまでの若い学生時代に、ドフトエフスキー・レルモンツフ・プーシキン・ゴゴリー・ゴリーキー・ツルゲーネフ・チェホフ等の偉大なロシア文学者の作品を日本語で或いは原書で読み、ロマノフ王朝時代のロシアに郷愁を憶えた。

これらの作品に登場する家の中の雰囲気の写真には必ずアクセサリーとしての小道具に、サモアールがあったし、また型も洒落たものであった。

現在根尾の私の山荘のギャラリーには14枚のロシア聖教のアイコン聖像を掛けているが、このサモアールより雰囲気がでるであろうと1人でほくそ笑んでいる。サモアールの本当の意味を知っている日本人は数少ないと思っている。現在モスクワの骨董屋でも余りみないとき、それがオースロで入手できたことは、偶然とはいえ、得意のムードであった。気を良くして骨董屋を2~3軒歩いたが、買いたいものはなかった。バイキングの兜のイミテーションくらいは入手できぬかと、\$を準備してきたのだが、それらしいものは目につかなかった。博物館、特にバイキング博物館で本物の遺品を一つみたにすぎない。見落としたのかも知れない。バイキング船を、そのまま展示した大きな船を二度みたのである。あの50米程の長さの木造船で四海を謳歌した姿の再現は圧巻であった。今回のICOMのシンボルマークもバイキング船をアレンジしたものであった。

2. ICOMとは白人の博物館オリンピックと

でもいえるような、白人が98%である。そしてその共通語が英語であるということである。

次のICOMはオーストラリアだが、若し、日本がこれを引き受けるとしたらどうであろうか。

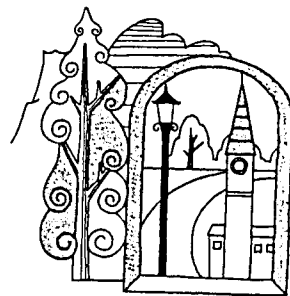
オリンピックを既に開いて成功している国だから、やろうと思えばできるが、事がスポーツとは異なるのである。それは何といても語学の壁である。この壁が破れぬ限り、日本でのICOMはかなり困難と言わざるを得ないのである。これさえ突破できれば、博物館やその展示は最近欧州に比して決してレベルは低くないのである。低いのは学芸員の資質だけである。然しそのレベルはかなり育成されてきているからである。そして、日本は欧州並の大形美術館や博物館のラッシュ時代に、より高い学芸員の出現と国際舞台で闘える学芸員をと祈っている。

1995年7月 ロスアンジェルズにて記す。

(参加日時

1995年6月28日~7月9日)

岐阜県博物館協会 顧問
大垣女子短期大学文化人類学担当
文学・哲学博士
前ニューヨーク州立大学副学長



美濃和紙の里会館

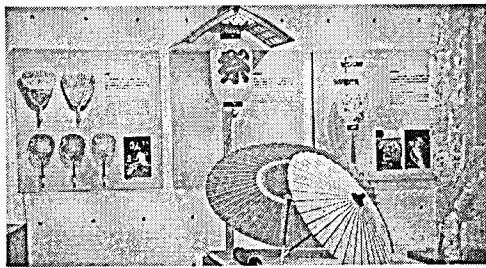
休館日 火曜日

岐阜県美濃市葦生1851の3

開館時間 AM9:00~PM5:00

TEL0575-34-8111 FAX0575-34-8280

美濃和紙の里会館は平成6年に開館した新しい博物館です。美濃市葦生にあり、この地は板取川流域で牧谷といわれ、古くからの美濃和紙の産地でありました。

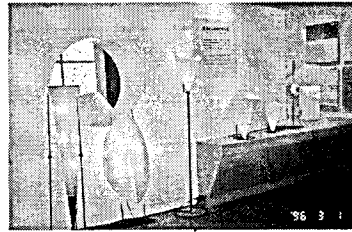


このような歴史的な場所に近代的な美濃和紙の里会館が建てられています。建物は鉄筋コンクリート造りで、地下1階、地上2階から成り、用途はそれぞれ研究フロア・パブリックフロア展示フロアです。

館長さんのお話しではこの和紙の里会館を美濃市の町おこしの拠点としたいとのことの古くから受けつがれ、育てられてきた美濃市の紙業を守ることは、それは同時に美濃市の紙業を活性化することであり、美濃和紙のブランドを全国的に広めていくことにもなる。そして、紙の町、美濃市の町づくりもなると情熱をこめて語られました。

美濃和紙の里会館は博物館機能と観光機能をあわせもつ参加体験型の「紙のテーマパーク」です。展示室は3つから成り、第1展示室は和紙の歴史や和紙づくりの技術が紹介されています。特に全国の和紙と美濃和紙との比較展示があり大変興味深いものです。第2展示室は日本文化を支えてきた和紙の多様な形態が大変美しくデザインされ、展示されています。

紙人形・紙人形の面、和傘等が展示され和紙の持つ特性が大きく広がる可能性を感じられるものです。2つの展示室の展示は大変明るく、広くスマートに紙の持つ特色、用途が表現され



ています。企画展示室では和紙に関する企画展示が年間12回開催されています。

最近の企画展では「和紙絵画展」「和紙人形展」「和紙にたずさわった人々」「和傘展」などである。

12回の企画展はすべて美濃和紙の里会館の職員の方々が協力して行なっているとのことでした。企画展のための調査研究、搬出、搬入、資料作成、展示、キャプション制作等は大変手間のかかることであると思われます。当館が美濃和紙のブランドを守り、新しい素材の開発にかたむけている情熱と意気込みを企画展を通してひしひしと感ずるのでした。

又、地下の研究フロアでは紙すきの体験ができる施設があり、その場で紙をすき、自から作った紙を手にすることができます。学校の社会見学や体験学習には絶好の場所ではないかと思われれます。

他の施設としてはハイビジョンホールや図書室、レストランもあります。ミュージアム・ショップには紙を使用した品物が多くあり、なかなか好評な売れいきとのことでした。

今後の課題としては企画展をさらに工夫し質の高いものにし、和紙のイメージアップをはかりたいとのこと、そして、来館していただいた人々に楽しい思い出を与えられるようなサービス・展示・何回も来館できるような会館にしていきたいと抱負を語っておられました。

名誉館長の塩ふみさんも館長就任の抱負として「世界にも誇れる美濃和紙の伝統と技のPR」を語っておられます。この美濃和紙の里会館はまだ歴史は新しいのですが、今後、この場所を拠点とした情報発進が全国にできたらと思いをこめながら当地をあとにしました。



(機関紙委員 曾我孝司)

幸兵衛窯資料館

(株式会社 丸幸陶苑)

岐阜県多治見市市之倉 4-124

TEL 0572-22-3821

FAX 0572-24-3661

幸兵衛窯は1804年(文化初年)多治見市市之倉において初代幸兵衛により開窯されました。まもなく、江戸本丸、西御丸御用窯の指定を受け、製品を納入するに至りました。そして、五代目幸兵衛(1893~1982)のときに、現在の幸兵衛窯の地位を確固たるものに築き上げられたのです。

その後、五代目幸兵衛は昭和五年の帝展に初入選したのを機会に頭角を表し、志野・乾山・李朝などの幅広い陶技を駆使して格調高い作品を次々と発表してこられました。

現在、幸兵衛窯は六代目加藤卓男氏が主宰され、次代加藤裕英氏とともに、陶芸界で活躍しておられます。

幸兵衛窯資料館は五代目幸兵衛・六代目加藤卓男・七代目加藤裕英各氏の作品を中心に展示されています。



資料館は三氏の作品を展示している工芸館・加藤卓男氏の30年にわたるペルシャ陶器の研究の質料、および美濃古陶の参考品を展示した

古陶磁資料館・加藤卓男氏の作品や幸兵衛窯の食器製品を展示した幸兵衛窯本館の三か所に分かれて構成されています。

現主の主宰者である人間国宝の加藤卓男氏からお話をおうかがいすると、日本の陶器のなかには、はるかペルシャの影響を受けているものがあり、織部焼などは16世紀に「海のシルクロード」と呼ばれる中近東からベトナムを経たルートを通ってはいってきた技法を参考にしたものだそうです。

このように、異文化の接触、導入、融合が日本の焼き物に大きな影響を与えていることがわかり、国際的な視野で日本の文化をとらえていくことが大切になってくるそうです。

加藤氏がお話して下さった「今までの伝統の中に外国の文化を取り入れていきたい。それが本当の伝統になるのです」。「新しいものを取り入れながら時代に即応していくのが伝統なのです」。「伝統から未来へ」といった言葉が心に残りました。また、展示の中にもこのような氏のポリシーを感じ取ることができました。



幸兵衛窯見学のためのご案内は下記のとおりです。

予約制：あらかじめ電話等で予約が必要です。

見学の際は本館事務所まで。

見学時間：9：00～17：00

(12：00～13：00休み)

休館日：日曜・祝祭日・第2土曜・会社休暇日

料金：古陶磁資料館のみ300円、本館・工芸館・蔵出し市会場は無料。

(機関紙委員 川合康司)